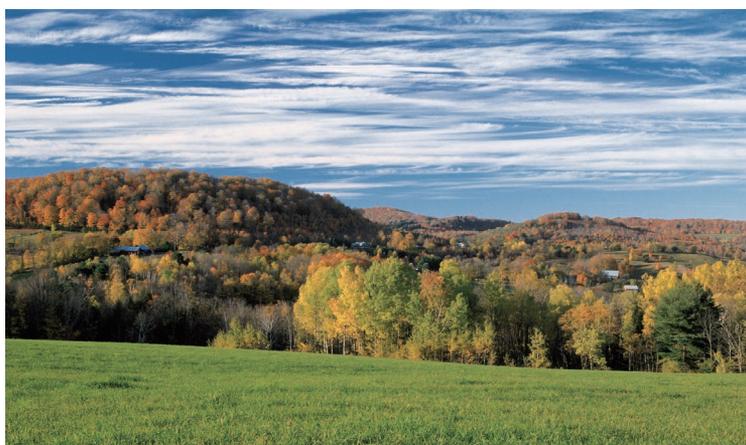


永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2019年 10月

「彼を知るために」 「生ける神の印 (1)」 「神に栄光を帰せよ—真の礼拝—」 「キャロブクリーム」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

生ける神の印 (I) 4
聖書の教え

朝のマナ

彼を知るために 8
That I May Know Him

現代の真理

「神に栄光を帰せよ—真の礼拝—」 40
神の栄光ともう一つの声

力を得るための食事

「キャロブクリーム」 44
レシピ

お話コーナー

「ピラトの前で (II)」 46
イエスの物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465 FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス www.4angels.jp

メール support@4angels.jp

発行日 2019年9月8日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Comstock on Front page, Sermon View on page 40

キリストのみ名によって

福音の任命は、キリストの国の宣教大憲章である。弟子たちは人々のために熱心に働き、すべての人人に恵みの招待状を渡さなければならなかった。彼らは人々がやってくるまで待つのではなく、使命を携えて人々のところに行かなければならなかった。

弟子たちはキリストのみ名によって、働きを進めて行かなければならない。彼らの言葉や行動はみ名にしっかり結びつけられていて、生き生きした力を持ち、それによって罪人たちが救われるのでなければならぬ。彼らの信仰は、あわれみと力の源であられるかたに集中する。そのみ名によって彼らはみ父に嘆願し、答えをいただくのであった。弟子たちは、父、み子、聖霊の名によってバプテスマを施さなければならぬ。キリストのみ名は彼らの合い言葉、彼らを区別するバッジ、一致のきずな、彼らの行動方針を支持する権威、成功の源となるはずであった。キリストの名が書かれていないものは、神の国では認められるはずはないのである。

キリストは、わたしの名によって出て行き、信じる者をすべて 教会に集めよと弟子たちに言われたとき、単純さを保つことの必要を彼らに明らかにお示しになった。見栄や見せびらかしが少なければ、それだけ彼らの感化は大きいのである。弟子たちはキリストがお語りになったような単純さで語らなければならなかった。彼らはキリストから教えられた教訓を、聞く者たちの心にとりこみつけなければならなかった。

キリストは弟子たちに、彼らの働きが容易であるとは言われなかった。…主は彼らと共にいること、そして彼らが信じて進むならば、彼らは全能者の盾のもとに行動することを約束なさった。キリストは彼らに、雄々しく強くなるようにとお命じになった。み使いよりも強い、天の軍勢の将が彼らの隊列の中におられるからである。キリストは彼らの任務遂行のために万全を期し、その成果の責任をみずからお取りになった。主のことばに従い、主と連携して働く限り、彼らに失敗はなかった。キリストは、すべての国民のもとへ行けと弟子たちにお命じになった。地球上の人の住むところにはどこへでも行き、そこにもわたしがあなたと共にいることを確信しなさい。信じて、自信をもって働きなさい。わたしがあなたを見捨てるような時は決して来ないからである。わたしはいつもあなたがたと共にいて任務を果たすのを助け、あなたがたを導き、慰め、きよめ、支え、人々の注意を天に向けさせる言葉を上手に語らせてあげよう。(患難から栄光へ上巻 22-24)

第13課 生ける神の印 (I)

印

インドでは、多くの人々の額、または顔の上に変わった印が描かれています。それらの印の形や大きさは様々です。これらの印はそれぞれ、その人が信じているインドの様々な神格を表しています。

真の神もまた、ご自身とその民を特定する印をもっておられます。その印は、極めて明白かつはっきりしており、その印をもつ人々はみな、明確にわかります。この印は、体や服の上にある目に見えるようなものではなく、また旗の上に描かれている特定の象徴のようなものでもありません。その印は、どんな物理的なしるしよりも長持ちするものです。実際のところ、それは永遠であり、かつ廃止することができません。その印とはどのようなものでしょうか。

わたしたちの神の印

「わが安息日を聖別せよ。これはわたしとあなたがたとの間のしるしとなって、主なるわたしがあなたがたの神であることを、あなたがたに知らせるためである。」(エゼキエル 20:20)。

安息日が、神とその民との間の印です。それによって創造主へ忠誠を示す男女を区別し、このお方こそが彼らの神であることを世に指し示しています。

創造の働きが完成したとき、創造主は「はなはだ良かった」と宣言されました。創造とは、全宇宙において、このお方以外はだれも行ふことのできない行為です。それは、神の全能の力の表現でした。創造によって、1週間という周期が制定され、毎週安息日には、創造するこのお方の偉大な力の永続的な印として記念するのです。

「こうして天と地と、その万象とが完成した。神は第七日にその作業を終えられた。すなわち、そのすべての作業を終わって第七日に休まれた。神はその第七日を祝福して、これを聖別された。神がこの日に、その全ての創造のわざを終わって休まれたからである。」(創世記 2:1-3)。

「安息日を守ってこれを聖とし、あなたの神、主があなたに命じられたようにせよ。六日のあいだ働いて、あなたのすべてのわざをしなければならない。七日目はあなたの神、主の安息であるから、なんのわざをもしてはならない。あなたも、あなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、牛、ろば、もろもろの家畜も、あなたの門のうちにおる他国の人も同じである。こうしてあなたのしもべ、はしためを、あなたと同じように休ませなければならない。あなたはかつてエジプトの地で奴隷であったが、あなたの神、主が強い手と、伸ばした腕とをもって、そこからあなたを導き出されたことを覚えなければならない。それゆえ、あなたの神、主は安息日を守ることを命じられるのである。」(申命記 5:12-15)。

安息日はまた聖化する神の力の象徴でもあります。「またモーセにいわれた、『あなたはイスラエルの人々にいいなさい。「あなたがたは必ずわたしの安息日を守らなければならない。これはわたしとあなたがたとの間の、代々にわたるしるしであって、わたしがあなたがたを聖別する主であることを、知らせるためのものである。』」(出エジプト記 31:12, 13)。

イエスの力の印

天と地を創造されたのはイエスでした。この事実を、使徒パウロは明確に述べています。「神は、わたしたちを闇の力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さった。わたしたちは、この御子によってあがない、すなわち、罪のゆるしを受けているのである。御子は、見えない神のかたちであって、すべての造られたものに先立って生まれたかたである。万物は、天にあるもの地にあるものも、見えるものも見えないものも、位も主権も、支配も権威も、みな御子にあって造られたからである。これらいつさいのものは、御子によって造られ、御子のために造られたのである。彼は万物よりも先にあり、万物は彼にあって成りっている。」(コロサイ 1:13-17)。

「神は、むかしは預言者たちにより、いろいろな時に、いろいろな方法で、先祖たちに語られたが、この終わりのときには、御子によってわたしたちに語られたのである。神は御子を万物の相続者と定め、また御子によって、もろもろの世界を造られた。」(ヘブル 1:1, 2)。

「はじめに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は初めに神と共にあった。すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、

一つとしてこれによらないものはなかった...。そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちは、その栄光を見た。それは、父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまことに満ちていた。」(ヨハネ 1:1-3, 14)。

神の御子であり救い主であられるイエス・キリストは、創造主であられました。そして安息日は、創造主の印として与えられたのですから、安息日はキリストの印です。このお方は、わたしたちの創造主であられるご自分がまた、わたしたちの救い主(救う力をもったお方)であることを常に思い出させるものとして、安息日を人にお与えになりました。「それだから、人の子は安息日にもまた主なのである」(マルコ 2:28)。

安息日はいつ与えられたのか？

安息日はしばしばユダヤ人のためだけに与えられたのだと主張されています。なぜなら、守るようにと記された戒めは、最初にシナイ山でイスラエル人に与えられたからです。しかし、安息日はそれよりもはるか昔から存在していました。もしそうでないとしたら、安息日を守りなさいという戒めは、「覚え... よ」(出エジプト記 20:8)という言葉によって命じられることはなかったはずです。覚えるということは、記念するということです。イスラエル人は、エジプトからの解放ではなく、創造を常に覚えるようと思い起こさせられました。

安息日は、創造の週の七日目に人類に与えられました。

創世記 2:2,3 に、安息日に与えられた特別な祝福を読むことができます。そこには、主が

第七日目に休まれた。

第七日目を祝福された。そして、

第七日目を聖別された

とあります。

聖別するとは、聖なる目的のために、取り分けるという意味です。

安息日は、極めて特別な日であり、単に1週間のうちの一部分なのではなく、「第七日目」です。安息日は、ある日から別の日へと変えることができるようなものではありません。それは週の第七日目として固定されているのです。

主が祝福されたのは制度ではなく、特定の日でした。そのため、もし、第七日目が安息日から引き離されてしまうならば、安息日が破壊されることになります。

救いと聖化の印

もともとの創造において表されたキリストの同じ力はまた、罪から人々を救うこのお方の力の中にも表されています。救いとは、再創造です。古く罪深い肉の性質は死滅し、新しい心が創造されます。「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られたものである。古いものは過ぎ去った。みよ、すべてが新しくなったのである。」(コリント第二 5:17)。

「わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたのうちに授け、あなたがたの肉から、石の心を除いて、肉の心を与える。わたしはまたわが霊をあなたがたの内において、わがために歩ませ、わがおきてを守ってこれを行わせる。」(エゼキエル 36:26,27)。

繰り返しますが、宇宙における他のいかなる力であっても、この働きをすることはできません。わたしたちは自らを変えることはできません。キリスト以外はだれもできません。「そこでまた、彼はいつも生きていて彼らのためにとりなしをしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである。」(ヘブル 7:25)。

預言者エゼキエルをとおして主ご自身が次のように宣言されました。「わたしはまた彼らに安息日を与えて、わたしと彼らとの間のしるしとした。これは主なるわたしが彼らを聖別したことを、彼らに知らせるためである... わが安息日を聖別せよ。これはわたしとあなたがたとの間のしるしとなって、主なるわたしがあなたがたの神であることを、あなたがたに知らせるためである。」(エゼキエル 20:12,20)。

ここで、安息日は、聖化する主の力の象徴となるべきことが宣言されています。神の力が表される場所ではどこでも、それが創造のわざでも、救いでも、聖化でも、そこに安息日をその力の象徴として見いだすのです。神の力が存続する限り、安息日はその力の象徴として残り続けます。

彼を知るために

That I May Know Him



10月

わたしへの個人的呼びかけ

「わたしは貧しく、かつ乏しい。しかし主はわたしをかえりみられます。あなたはわが助け、わが救主です。わが神よ、ためらわないでください。」(詩篇 40:17)

あなたの大きな欠乏があなたを失望させないようにしなさい。罪人の救い主であり、友なき人の友である方は、愛する、そして悩んでいる子供に対する優しい母親よりも、無限に大きな思いやりを持って「わたしを仰ぎのぞめ、そうすれば救われる」と招いておられる(イザヤ 45:22)。「しかし彼はわれわれのことがのために傷つけられ、われわれの不義のために碎かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ」(イザヤ 53:5)。……

キリストの教えを、個人的な事柄とせず、わたしたちへの個人的な呼びかけとして受け入れないという危険がある。教訓のみ言葉の中で、イエスはわたしのことを言っておられるのである。わたしは、あたかも、世界にキリストがそのために死なれた罪人は他にいなかったかのように、十分に主の功績と主の死、また主の清めの血をわたし自身に当てはめていいのである。……

わたしたちすべての者が、なすべき、苦勞や、戦い、また自己否定がある。だれもそれから逃れることはできない。わたしたちは、イエスが導かれる道を歩まねばならない。それは、涙や試練、分離、罪に対する悲しみの中にあるかもしれない。あるいは、邪悪な欲望や調和の取れていない品性、清められていない気質に勝利しようと努力することにあるかもしれない。わたしたち自身を生ける犠牲、また神に受け入れられる清いものとしてささげることは熱心な努力を要する。それは、わたしたちのすべてをあげてなされるべきものである。その心には、サタンが支配権を持ち、悪だくみを実行することのできる余地はない。自我は、十字架につけられなければならない。献身と従順、そして犠牲は、心臓から命の血液そのものを取り去るかと思えるほどになされねばならない。(ビュー・アード・ヴァルト 1884年7月22日)

世に打たれ、軽蔑され、あざけられ、そしられることが、あなたを悲しませるであろうか。そうであってはならない。なぜならば、イエスは、わたしたちにそれがどういふものであるかを告げておられるからである。「もしこの世があなたがたを憎むならば、あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを、知っておくがよい」(ヨハネ 15:18)。信仰の偉大なる勇者、使徒パウロは、「わたしは思う。今のこの時の苦しみは、やがてわたしたちに現されようとする栄光に比べると、言うに足りない」(ローマ 8:18)。「なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである」とあかししている(コリント第二 4:17)。(同上)

10月2日

心の土地を耕すこと

「あなたがたは自分のために正義をまき、いつくしみの実を刈り取り、あなたがたの新田を耕せ。今は主を求むべき時である。主は来て救いを雨のように、あなたがたに降りそそがれる。」(ホセア 10:12)

どの教会員にも、農夫のする骨の折れる仕事である新田の開墾や、土地の注意深い浄化、耕作、そしてうねを作って種をまく仕事について考えさせなさい。それは、厳しい、労苦の多い過程である。種をまくためにうねを作ることは、受ける者にとって必ずしも楽しいことではない。そしてしばしば、み言葉の効力を知らず、霊的生活における耕作の過程のもとに、従順であろうとしないために、その人に種まきができなくなる。犯した罪は、悔い改める必要のない心からの悔い改めを要求する。しかし、固い土が耕され、強情さという土のかたまりがこなごなに砕かれると、その後、尊い種をまき、すきで土の中に入れることができる。これは、神の厳しい訓練を表している。しばしば反逆が現れるために、神の訓練は固くなった人の意志を砕き、目的が達成されるまで、続かなければならない。

自然界のことと同様、霊的な事柄においてもこの働きがなされなければならない。しばしば、厳格さが、霊的収穫においても必要とされる。適切に種をまき、そこを耕作しないならば、豊かな収穫が得られないことは、神の偉大な法則である。ある一つの経験が欠けている。神の祝福は、主がみ言葉の種をまいておられる間ただ人が、心の土地への霊的働きをなし、その土地に対する勤勉な世話をするようにと待っているのである。

人が種をまく時、またそれを刈り取る。生活からあらゆる罪を洗い清めるという目的をもってみ言葉を学び、真理が何であるかを知らうとして聖書を調べる人は、すべて、「主はこのように言われる」との通りにみ言葉の真理を歓迎する。彼らは聖書の真理の鋭い譴責のもとに悔い改める。……もし人が、真の悔い改めという種をまくなら、彼は、健全な働きという良い報酬を刈り取る。もし彼が信仰を持ち続けるなら、安っぽいもの、愚かなものに対する欲望から清められるならば、……義と完全な愛とを刈り取る。……勝利のうちに善行を続けるならば、彼は、日々勝利者となる。なぜならば、彼は、とこしえに彼の前にあるキリストの完全さの印を持つからである。(手紙 291,1903年)

靈的な筋肉と筋

「試練を耐え忍ぶ人は、さいわいである。それを忍びとおしたなら、神を愛する者たちに約束されたいのちの冠を受けるであろう。」(ヤコブ 1:12)

試練の時になると、わたしたちの信仰が試みられ、イエスの現れる時、賞賛と名誉と栄光が与えられるようになるまで、神がわたしたちを試されるという事実を見失いがちである。主は、わたしたちを啓発するために、わたしたちをいろいろな立場におかれる。もしわたしたちが自分の気付いていない品性の欠点を持っているならば、それらの欠点をわたしたちに知らせ、それに勝利できるように訓練してくださる。いろいろな境遇にわたしたちを導かれるのは、主の摂理である。どの新しい立場においても、わたしたちは違った種類の誘惑に遭遇する。試みられるような状況に置かれた時、なんとしばしば「これは、なんとという間違いだ。以前のようにであったならば、どんなに良かったであろうに」と考えることであろう。しかし、あなたが満足しないのはなぜだろう。それは、新たな環境が、あなたに、品性の新しい欠点を知らせるからである。しかし、あなたのうちになかったものが現わされることはない。……

困難に遭遇する時、あなたは靈的な筋肉と筋がつくようになる。あなたが、試みの過程と神の試練に耐えるならば、キリストにあつて強くなる。……試みが来た時、あなたは、天使と人の前に見せ物になっていることを覚えなさい。そして、主の試みに耐えるのに失敗するたびに、あなたの靈的な力が弱くなっていくのだということを覚えなさい。つぶやかないで、沈黙を守るべきである。そして重荷をイエスのところへ持って行き、あなたの魂全体を主の前に開きなさい。重荷を第三者のところへ持って行ってはならない。人間にあなたの重荷を負わせてはならない。「わたしは、つぶやくことによって敵を喜ばすことをするまい。そして、心配をイエスの足もとに持って行こう。信仰をもってそれを主に申し上げよう」と言いなさい。もしあなたがそうするならば、天からの助けを受ける。あなたは、「主がわたしの右にいますゆえ、わたしは動かされることはない」というみ約束が成就したことに気づくであろう(詩篇 16:8)。(ビュー・アソッド・ワルド 1889年8月6日)

「多くの者は、自分を清め、自分を白くし、かつ練られるでしょう」と神の言葉に記されている(ダニエル 12:10)。試練を耐え忍ぶ人だけが命の冠を得るのである。(キリストの実物教訓 134)

10月4日

わたしの恵みはあなたに対して十分である

「ところが、主が言われた、『わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる』。それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。」(コリント第二 12:9)

この八か月(オーストラリアにおける、エレン・ホワイトの長期の病気の時書かれたもの)、わたしの病気のために、眠れなかった時に、人間を滅びから救うために払われた、驚くべき犠牲にあらわされている、人に対する神の愛を考える最も尊い時を得た。わたしは、イエスの名前を喜んでくり返した。何というやさしい、明るい、そして愛に満ちたみ名であろう。主の義がわたしたちに着せられるようにと、わたしたちの罪を負われて、屈辱と苦しみの十字架を仰ぐ時、わたしたちの心は、和らげられ、心は主の愛で満たされる。……

苦痛がほとんど耐え難いと思った時、私はイエスを見つめ、そしてこの上なく熱心に祈った。その時、主はわたしの傍らにおられ、やみは過ぎ去り、すべては明るくなった。ちょうどその空気は、尊い芳香で満たされた。真理は何と栄光に満ちたものであったことであろう。何と心を高めることであろう。わたしは、イエスの愛の内に休むことができた。痛みは、尚わたしに残っていた。しかし、「わたしの恵みはあなたに対して十分である」というみ約束は、わたしを慰めるのに十分であった。最も鋭い痛みも、平安と安らぎに移された。夜の数時間、わたしは神との快い交わりをした。わたしの心は明るくされた。つぶやきも、不平も起こらなかった。

イエスは、わたしの希望と喜び、また勇気の泉であった。天が非常に近くあるように思えた。キリストは、偉大な医師、わたしの回復者、すべての病をいやしてくださる方である。主の中にすべてのものが満ちている。イエスは、わたしの耳に音楽であり、苦しみの杯を飲んでいる時も、命の水が、わたしの渴きをいやすために与えられた。キリストはわれらの義、清め、そして贖いである。この苦しみの数か月を通して、わたしはイエスの恵み深いことについてのこんなにも貴重な幻を見たのであった。決しておぼろげにはしたくないと願った。今、わたしはこの外国でのわたしの病気が、神のご計画の一部であることを信じている。……わたしの心は、天が与えてくださるものに対して、なんと熱心に嘆願したことであろう。わたしは自分で何事も、することができない。力と栄光はすべて神のものである。(手紙 28,1892年)

主はわたしの助け主

「主は、『わたしは、決してあなたを離れず、あなたを捨てない』と言われた。だから、わたしたちは、はばかりずに言おう、『主はわたしの助け主である。わたしには恐れはない。人は、わたしに何ができようか。』」（ヘブル 13:5,6）

わたしたちは、毎日、毎時間、信仰の良き戦いを戦わねばならない。あなたは、多くの試練に会うであろう。しかし、あなたがそれらに忍耐深く耐えるなら、それらは、あなたを霊的に精錬し、清くし、気高くし、また高める。……まことに大きな患難が地上にのぞもうとしている。そしてサタン力は、苦しみと、災害と、滅びを起すために激しくもろもろの支配権を奮い立たせようとしている。彼の働きは、できる限り災害を人類の上に引き起こそうというものである。地球は、彼が活動する場である。しかし、彼は抑制されている。彼は、主が許されるところを越えていくことはできない。「わたしは、決してあなたを離れず、あなたを捨てない」（ヘブル 13:5）。「わたしはたなごころにあなたを彫り刻んだ」（イザヤ 49:16）。……「わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない」（ヨハネ 14:18）。聖霊は求める者に対して与えられる。考えてみなさい。両親がその子供に良い物を与えようとする以上に主はご自分を求める者に聖霊を与えようと望んでおられる。だから、わたしたちは、楽しみ、喜ぼう。希望と勇気がくじけてしまうまで暗黒の勢力がなす滅びの働きを見るようなことはやめよう。イエスは生きておられる。そして、わたしたちは、わたしたちの信仰によって闇を貫き、光の内に留まり、義の太陽の光の内では喜ばなければならない。

イエスは、わたしたちのためにとりなしておられる。暗黒や暗闇が世界を閉じ込めつつある間も、キリストと共に神の内に隠されている限りわたしたちの命は安全である。尊い救い主！永遠の命に対するわたしたちの希望は、ただ主のみ集中されるべきである。その時わたしたちは信仰を語り、希望を語り、勇気を語り、そして四方に光を放つ。「あなたがたは」とキリストは言われる、「世の光である。山の上にある町（である）。……あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい」（マタイ 5:14-16）。信仰は、最も暗い雲を刺し貫かなければならない。神への単純でこの上なく熱心な信頼は、み名に栄光を帰す。そして、その信頼において、あなたは主にあつてあますことなく光となることができる。主を讚美しなさい。神を讚美して、その比べるもののない愛のゆえに神に栄光を帰しなさい。（手紙 133,1894 年）

10月6日

感情は拒否の証拠にならない

「すべて主を呼ぶ者、誠をもって主を呼ぶ者に主は近いのです。主はおのれを恐れる者の願いを満たし、またその叫びを聞いてこれを救われます。」(詩篇145:18,19)

わたしは、神のみ言葉の内にある尊い約束にあなたがたの注意を向けたい。神の子供たちが皆、同じ力、同じ気質、また同じ確信や、勇気をもっているわけではない、わたしたちの感情が、わたしたちが神の子供たちでないという証拠にはならないということをわたしは本当に喜んでいる。敵は、あなたが神からあなたを引き離すようなことをしたので、神はあなたをもはや愛しておられないとあなたに考えさせようとする。しかし、わたしたちの主は、なおわたしたちを愛しておられる。ちょうど、あなたのような場合のために、主が記されたみ言葉によって、わたしたちは知ることができる。わたしの子たちよ。これらのことを書きおくるのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである。「もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる」(ヨハネ第一 2:1)。「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる」(ヨハネ第一 1:9)。……

神はあなたを愛しておられる。そして、あなたのためにご自身をお与えになった尊い救い主は、あなたが誘惑を受け、また、弱さのゆえに打ち負かされたからといって、あなたを突き放したりはなさらない。主は、なおあなたを愛しておられるのである。

ペテロは試みの時、主を知らないと言った。しかし、イエスは、ご自分のあわれな弟子を捨てられなかった。ペテロは自分を忌まわしく思ったが、主は彼を愛された。そして復活の後、主はペテロの名を呼ばれ、彼に愛の使命を伝えられた。何という、やさしく、愛情深い、また思いやりにあふれた救い主をわたしたちは持っているのであろうか。そして、主は、わたしたちが過ちを犯していてもわたしたちを愛して下さるのである。

それだから、愛する救い主の腕から離れると恐れることなく、信頼して信仰のうちに休んでいなさい。主はあなたを愛し、かえりみられる。主はあなたを祝福し、あなたにご自分の平安と恵みをお与えになる。主はあなたに、「あなたの罪は許された」と言っておられる。あなたが肉体的な弱さに落胆しても、それは、主があなたのために日々働いておられないという証拠とはならない。主はあなたを許される。しかも豊かに許される。神の芳しい約束をあなたの魂に集めなさい。イエスは変わらない信頼できるわたしたちの友であり、あなたがご自分により頼むのを望んでおられる。……自分自身から目を離し、キリストの完全を見つめなさい。(手紙 99,1896年)

「あなたのために祈った」

「しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」(ルカ 22:32)

ペテロに言われたみ言葉は、すべてのクリスチャンにもあてはまる。「サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った」(ルカ 22:31,32)。わたしたちは一人で放っておかれてはいないことを神に感謝しよう。これがわたしたちの安全である。サタンは、キリストがあらかじめ試練に備えてとりなしてくださった者に、永遠の災いをもって触れることはできない。なぜなら恵みがキリストにあつて、すべての魂に用意されており、逃れの道が備えられているので、だれひとりとして、敵の力に屈する必要はないのである。サタンは、神の民を攻撃するために多くの強力な誘惑を用意している。サタンは吠えたいけしのように、無防備な魂を求めて歩き回り、巧妙に欺いて、最後にはその魂を滅ぼそうとしている者として表されている。わたしたちはキリストなしには、ただの一步も安全ではない。しかし、「わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った」と言われたみ言葉には、なんとという宝のような慰めがたくわえられていることだろう。サタンはもみがらをふるいにかけるのである。彼が手に入れたいと望んでいるのは、麦である。だから、わたしたちはいつも、勇気を持って、祈っていよう。

キリストは、わたしたちの祈りにご自身の犠牲の功績を混ぜてみ父に捧げてくださる。そして、わたしたちの祈りは芳しい香りのように、神のみ前に上るのである。……あなたが罪に誘われる時はいつでも、キリストの目があなたの上にあること、そして、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願っていることを覚えなさい。あなたの嘆願を天に向かってささげるのを忘れてはならない。そしてイエスがあなたのためにとりなしてくださるのを見なさい。神に熱心な叫びをあげなさい。「主よ、わたしを救ってください。わたしは滅びます」と。そうすればあなたは打ち負かされることはない。罪に陥ることもない。パウロの言葉の上にはしっかりと立ち、イエスのうちに、言いなさい。「しかし、わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある。わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである」(ローマ 8:37-39)。(ユヌ・インストラクター 1894年12月20日)

10月8日

完全の価

「なぜなら、万物の掃すべきかた、万物を造られたかたが、多くの子らを栄光に導くのに、彼らの救の君を、苦難をとおして全うされたのは、彼にふさわしいことであったからである。」(ヘブル 2:10)

わたしたちすべての者に対するキリストの招きは、平和と、休息の生涯—自由と愛の生涯への、そして、将来の不死の命、豊かな御国への召しである。……この自由の道が、戦いと苦難の中を通っているかどうかを、不安に思う必要はない。わたしたちが享受する自由は、それを得るために犠牲を払うことによって、もっと価値のあるものとなる。知識を越える平和のためには、暗黒の力との戦いや利己心と内なる罪に対する厳しい苦闘を要する。……

わたしが信仰の目をもって、わたしたちの贖い主が、人間の惨めさのこれ以上ない深みにまで来られたこと、ご自身の上に人性をとられたこと、この上なく苦しまれたこと、そして苦しむことによって罪人を救い、ご自分との交わりにまで引き上げるために神としての御力を出し尽くされたことを悟ることができるときまでは、最も高い意味において、彼に感謝することができない。なぜ、わたしたちは、罪について、罪に対する意識がこんなにも薄いのであろうか。なぜこんなにも悔い改めないのだろうか。それは、キリストの十字架にもっと近寄らないからである。良心は罪の持つ欺瞞を通して固くなっている。なぜなら、わたしたちが、キリストから離れているからである。わたしたちの救いのかしらのことを考えなさい。彼は、わたしたちが、永遠の恥と侮辱に苦しまないように、わたしたちのために恥をこうむられた。主は、十字架の上で苦しまれた。それによって恵みが墮落した人類に授けられた。神の義は保たれ、そして罪ある人間は許されている。イエスは、罪人が生きるために死なれた。あわれな罪人のために、最高のお方である御子が恥辱に耐えられた。それによって彼らはあがなわれ、永遠の栄光の冠を受けるのである。……

わたしたちは、イエス・キリストにあって、自我を隠さなければならない。そしてわたしたちの会話や、品性において、主を全く愛の方として、そして万民のかしらとして表されなければならない。わたしたちの生活や態度は、キリストとご自身を犠牲にして、わたしたちのためになしとげられたその救いとをいかに重んじているかを証しするのである。わたしたちが、自分たちの罪が刺し貫き、わたしたちの悲しみを負われた主を、絶えず見つめる時、主のようになるために力を得ようになる。わたしたちは、自分自身を、自発的で幸せなキリストの捕らわれ人とするであろう。(ビュー・アノド・ハルド 1881年8月2日)

神の律法に生きること

「すべての事は父からわたしに任せられています。そして、子を知る者は父のほかにはなく、父を知る者は、子と、父をあらわそうとして子が選んだ者とのほかに、だれもありません。」(マタイ 11:27)

イエスは、エホバの聖なる律法に生きることで、神のご品性をあらわすために来られた。主はご自分の弟子と人々に与えられた教訓の中で、律法の原則をはつきりと示そうとなされた。律法に対する個人的な服従によって、主は日常生活の義務聖なる意味のあるものとされた。主人々の間人として生きられた。……主は。民の間で生活され、彼らの貧困や悲しみを共にされた。主は、人間の前で神の栄光を保たれることによって、またすべてのことを天父のみ心に従わせることによって、すべて詳細に至るまで生活を高貴なものとした。主のご生涯は、神に対するこの上ない愛と、同胞としての人々に対する燃えるような愛によって特徴づけられている。……

主のご生涯は、その始めから終わりまで、自己否定と自己犠牲のそれであった。カルバリーの十字架の上で、主はすべての人間のためにご自身を偉大なる犠牲として捧げられた。それにより、全世界は望みさえすれば、救いを得ることができるようになった。キリストは神の中に隠され、神は御子のご品性において、世界にあらわされている。……

失われた世界に対する愛は、主のご生涯のすべての日、すべての行為に表されていた。聖霊を注がれている人々は、キリストが働かれたよう働く。キリストのうちで、神の光と愛は、人性において表された。いかなる人間も罪のない神の聖なるひとり子が持たれたような敏感な性質をもった者はなかった。彼は神性が与えられることを通して、人間がどのようなものになれるのかをあらわす頭、および代表者として立たれた。キリストを自分の個人的な救い主として信じる者に、主は、ご自分の功績を着せ、ご自分の力を与えられる。悲しみや失望、また試練を負ってご自分に来る者に、主は休みと平安を与えられる。魂が、神に対する悔い改めの必要を悟るのは、キリストの恵みによってである。……そして、信仰によって、キリストを見つめるように導かれ、主の功績はキリストにあって神に来るすべての者を最高にまで救う力があるということを知るのである。……わたしたちは愛を受け入れるために心を開こう。この愛は決して欠くことのできないものであり、神の戒めを完全に実行するために育成するべきである。(ユース・インストラクター 1894年8月16日)

10月10日

神の変わらざる永遠の律法

「わたしが律法や預言者を廃するためにきた、と思っはならない。廃するためではなく、成就するためにきたのである。よく言っておく。天地が滅び行くまでは、律法の一点、一画もすたることはなく、ことごとく全うされるのである。」(マタイ5:17,18)

サタンの働きが、天において完成していたならば、神の律法は、変更させられたことであろう。しかし、これはありえないことであった。なぜなら神の律法は、神のご品性の写しであり、神のご品性と同じく、不変のものだからである。もし神の律法において何かの変更が可能ならば、その時、そこで変更され、天で反逆者を救ったであろう。しかし、サタンの要求に応じるために変更されることはなかったのでサタンは、……天の宮における、高い聖なる地位を失ったのである。

サタンの墮落の後、彼は、アダムとエバの心に働きかけ、彼らの忠誠を捨てるようそそのかした。……その時、神の律法が変えられ、人間の墮落した状態に、かなうように変更できるものであるならば、アダムは許されて、エデンにその家庭を持ち続けていたことであろう。しかし、罪の罰は死であった。そして、キリストは、人間の身代わり、また保証人になられたのである。もし、神の律法が変更され得るものであったならば、その時にその変更がなされ、キリストは天の宮にとどまられ、墮落した人類を救うために払われたはかり知れない犠牲は避けられたはずである。しかし、そうではなかった。神の律法はその性質上、不変のものであり、それゆえにキリストは墮落した人類のためにご自身をささげられた。そして、アダムは、エデンを失い、彼の子孫と共に執行猶予の恵みのおかれたのである。

天からサタンが追放されて以来、神の律法の一つでも変更されたならば、サタンは自分が追放される前に、天で得ることのできなかつたものを追放されてから地上で得たことになる。彼は、自分が、要求したもののすべてを受け取ったことであろう。わたしたちは、サタンが受け取っていないのを知っている。……律法は、……神のみ座と同様に不変であり、そしてすべての魂の救いは、服従か、不服従かによって、決定されるのである。……イエスは、同情に満ちた愛の律法によって、わたしたちの罪を負われ、わたしたちの刑罰を受け、そして、罪人の飲むべき神の怒りの杯を飲まれた。……彼は、わたしたちのために、自己否定と自己犠牲の十字架を負われた。それは、わたしたちが、命、すなわち永遠の命を持つことができるためである。わたしたちは、イエスのために十字架を負うだろうか。(手紙110,1896年)

わたしたちの行為の標準

「あなたのなすべき事を主にゆだねよ、そうすれば、あなたの計るところは必ず成る。」(箴言 16:3)

わたしたちは自分の働きを主にゆだねる特権を持っていることを感謝しよう。わたしたちは、命のない機械の一部分なのではなく、知的存在であってはつきりとした良心と、純粋な目的をもって善を選び、悪を拒絶することができるということを知っているべきである。わたしたちは、わたしたちのなすことすべてに一貫性のある目標を持つべきである。

主に自らの道をゆだね、その道を主の探る律法によって確かめる必要がある。「あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ、主はそれをなしとげ」(詩篇 37:5)られる。もし、不正の行為をしているならば、わたしたちは神に自分の道をゆだねることができない。「もしわたしが心に不義をいだいていたならば、主はお聞きにならないであろう」(詩篇 66:18)と詩篇記者は言っている。わたしたちの道を主にゆだねる時、わたしたちは心をくまなく徹底的に探り、すべての悪を追い出すべきである。そうすれば、キリストは、ご自分の義を心に満たしてくださる。わたしたちは嘆願の最初に罪の悔い改めをなし、祈りのうちに主を求めるべきである。……

神の律法は、わたしたちの行動の標準である。神の目は、あらゆる行いをご覧になり、心のすべての部屋を探り、ひそんでいる自己欺瞞や、偽善を見破られる。すべての事柄は神の御目にあらわされており、わたしたちが、(言い開きをしなければならぬ)主の前に明らかである。しかし主は、深く罪を悔いた心でご自分のところに来る者、すべての悪を捨てようと心から決心している者をお受入れになる。……

あらゆる仕事上の取引において、またすべての言葉と行為において、わたしたちは、汚れていない目的と、潔白な良心を持ち続けなければならない。わたしたちの働きを神にゆだね、主の御手に全く任せざるべきである。わたしたちのなすべきことは、この上なく厳格な完全さを持ってなされるべきである。天の宮に持つて行くことのできないようなものを大切にすべきではない。わたしたちが働く時、神に助けを求めよう。そしてこのことだけが、わたしたちの働きを利己心から解放してくれることを悟るべきである。……しっかりと上を見上げなさい。なぜならあなたは、人を生きかえらせる天の空気を絶えず必要としているからである。わたしたちは絶えず天の父と交わって生きる必要がある。……あなたも聖なる神の御前にいるようにあなたの義務を行いなさい。(手紙 406,1906年)

10月12日

服従による幸福

「光のうちにある聖徒たちの特権にあずかるに足る者とならせて下さった父なる神に、感謝することである。神は、わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さい。」(コロサイ 1:12, 13)

わたしたちの将来の永遠の幸福はわたしたちの人性を、あらゆる能力と力とを持って神に服従させ、神性の支配のもとに置くことにかかっている。多くの者が、イエス・キリストを信じる信仰を持っていない。彼らは、「キリストは、神であったから、天父の意志に従うことは容易であったのだ」と言う。しかし、主の言葉が、主が「わたしたちと同じように試練に会われたのである」(ヘブル 4:15)と宣言している。主は、主の心の高貴さに応じて、そしてそれに比例して試みられた。しかし、主は、試みに負けることによってご自分の聖なる力を弱めたり、無力にしたりすることを望まれなかった。主の地上でのご生涯において、キリストは、主にあつて与えられている特権と機会を通して、人間がどのようになることができるかを表された。……

サタンが、わたしたちの最初の両親を誘惑した時、……彼らが、人間の領域を超えるべきであるかのように信じさせようと彼らをおだてた。しかし、キリストは、ご自分がわたしたちの前におかれた模範によって、人類の家族の一人一人が人として、人間の領域において、神の言葉に従うように励まされた。主ご自身が、人間となられた。それは、サタンの性質をもって働く彼の奴隷ではなく、主のご品性の写しである神の律法に従順な、道徳的力を持った人間となられたのである。神から発している知恵と善に満ちた律法に従わないで、反逆する者は、背教の力の奴隷である。

イエスは、人間と神との間で仲保なさるためにひとりの人となられた。……それによりサタンの巧妙な誘惑によって人間がエデンで失った本来の心を人間に回復するためである。……不従順は、神がエデンで人間に与えられた性質に調和するものではない。

わたしたちは、キリストが人間に与えて下さった道徳の力を通して、わたしたちを、光の聖徒たちの御国を継ぐものとされた神に感謝することができる。イエス・キリストを通してすべての人間は、自分自身のために、そして自分自身の力で勝利することができ、自分自身の持つ個人の品性にあつて立つことができるのである。(手紙 121, 1897年)

服従のための力

「もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにおのである。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにおると同じである。」(ヨハネ 15:10)

イエス・キリストを自分の救い主として信じていると公言するある人々は、「だれも律法を守ることはできない」と言い続けてきた。この点に関してキリストの言葉は明白である。主は、「わたしは、わたしの父の戒めを守った」と言っておられる。そして主はすべてのことにおいて、わたしたちの模範である。

山上の垂訓において、キリストは、ご自身の使命をはっきりと述べられた。「わたしが律法や預言者を廃するためきた、とってはならない。廃するためではなく、成就するためきたのである」(マタイ 5:17)と言われた。主は預言者たちが証した事柄について文字通り一つ一つ詳細を実行するために来られた。世の創造の前から父と共に存在された方が、ご自身で、聖なる人々によって記された預言を与えられた。すなわちご自身が後に成就するために来られる預言を与えられたのである。

キリストは、天父と同等の立場に立っておられる。このことにより、主は罪人のための罪祭となることがおできになった。主は、律法を高め、ほまれあるものとするのに完全に十分であられた。……主は、エホバの戒めを人間の格言や伝統と区別された。主は十戒をその完全な純潔さのうちに真理の表現として、掲げられた。……

キリストは、神が人間の守ることのできない律法を作ったというサタンの偽りを破るためにこの世界に来られた。ご自身に人性を取ってこの地上に来られ、服従の生涯を送ることによって、人間が守ることのできない律法を神はお作りにはならなかったことを示された。人間にとって律法に完全に従うことは可能であることを主は示された。キリストを自分の救い主として受け入れる者は、主の聖なるご品性にあずかる者となり、主の模範に従って、律法の一つ一つの教えに対して従順に生活するのである。キリストの功績を通して人は、天で自分が信用されるに足る者であり、反逆することはないということをその服従によって示すべきである。

キリストは、人間がもっているのと同じ性質を持っておられた。彼は人が試みられるのと同じくあらゆる点で試みられた。キリストが、服従するために用いられたのと同じ力をわたしたちも得ることができる。(原稿 48,1893 年)

10月14日

わたしたちの忠誠の証拠

「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」
(ヨハネ 14:15)

この点を、すべての者の心の中にしっかりと定着させなさい。もしわたしたちがキリストを贖い主として受け入れるのならば、主を統治者として受け入れなければならない。わたしたちが主を認め、その戒めに従うまでは、キリストを救い主として完全に、しっかりと信じ、その保証を持つことはできない。このようにして、わたしたちは、神に対する忠誠をあかす。その時わたしたちは、自分の信仰に真の響きを持つのである。それは、愛によって働く。心からこう言いなさい、「主よ、わたしはあなたが、わたしの魂を救うために死なれたことを信じます。わたしのためにあなたの命を与えられるほど、わたしの魂を価値あるものにしてくださったので、わたしは、自分の生命とわたしのすべての弱可能性をあなたの御手にゆだねます」と。意志は、神の御旨と完全な調和をもたらすものでなければならない。(原稿 24,1890年)

今日「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう」という招きがなされている(マタイ 11:28,29)。キリストは、ご自分のくびきを負い、ご自分の柔和と心の謙遜を学ぶ者すべてに休息を与えてこられた。ここでわたしたちは、自制と従順を教えられ、この中にわたしたちは、休息を見出す。謙遜と従順の中にわたしたちすべての者がとても必要としている事柄すなわち信仰と確信と完全な信頼の中にある休息を見出すことを神に感謝しよう。わたしたちは、自分の首にかける重苦しいくびきを作り出してはならない。キリストのくびきを負って完全な服従により主と共にいる者となろう。……

「もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにおのである。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにおるのと同じである」(ヨハネ 15:10)。これが、キリストがわたしたちにつけるようにと招いておられるくびきすなわち従順のくびきである。「主よ、わたしは、あなたのみ言葉を信じます。あなたのみ約束を受け入れ、あなたの所に来ます。なぜなら、あなたを個人的な救い主として、必要としているからです。キリストが共にいて下さらなければなりません。わたしはあなたにより頼みます。あなたはわたしのものです」と言おう。そうすればキリストは、「わたしの戒めを心に抱いてこれを守る者」すなわち、うわべだけでなく、精神と心を魂と力を尽くして守る者は「わたしを愛する者である」と言われる(ヨハネ 14:21)。これが品性の真の標準である。わたしたちは、み言葉を行う者とならなければならない。(手紙 66,1898年)

律法のすばらしい単純さ

「主のおきては完全であって、魂を生きかえらせ、主のあかしは確かであって、無学な者を賢くする。」(詩篇 19:7)

エホバの律法はその単純さとその包容力の大きさ、また完全さにおいて、なんとすばらしいものであろう。神のご計画とみ摂理には、有限な心が、理解できない神秘がある。……

しかし、神の律法には神秘はない。最も弱い知性も、生活を規制し聖なる型に従って形成するこれらの法則を把握することができる。人の子らが、自分の能力の最善を尽くして、この律法に従おうとするなら、今までよりももっと、神の目的と計画を理解する知性の力と識別力を得ようになる。……

律法を拡大し、高めるためにキリストがなされた無限の犠牲は、律法の一点、一画といえどもその違反者に対する要求をゆるくすることはないということを、明らかにする。キリストは、罪人が違反によって負った負債を払うために来られた。そして、主ご自身の模範によって、人がいかに神の律法を守るべきかを教えるために来られた。キリストは「わたしがわたしの父のいましめを守った」と言われた(ヨハネ 15:10)。……神の僕であると告白している非常に多くの者が、主の律法は取り除かれたと行って彼らが神の戒めに従う義務はないと罪人たちに教えているのは、信じられないことである。なんという致命的な感嘆であろう。……

わたしたちは奴隷の地、死の地に住んでいる。大多数の者は、罪深い習慣や悪の慣習のとりこになっている。そして彼らの足かせは、壊すのが難しい。悪は洪水のように世界に氾濫している。犯罪は、話すことさえ恐ろしいほど日常茶飯事になっている。わたしたちはこれらのことのすべては人間が、神のみ心に従順に生きているから起きているのであるか、あるいは、牧師も人々も、神の戒めは、拘束力を持っていないと信じた、教えているためから起きることであるかがわかるであろう。(ビュー・アズ・ワルト 1886年9月14日)

「神はそのひとり子を与えられるほど、世を愛された」このことにより失われた者も救われる。……主が憐み深い方であることを経験し、知った者は、罪の道に従おうとする思いを持つことができない。自分をそれほどまでも愛して下さった神の律法を破ることは、彼にとって苦痛なのである。(同上1月24日)

10月16日

神の道德の鏡

「これに反して、完全な自由の律法を一心に見つめてたゆまない人は、聞いて忘れてしまう人ではなくて、実際に行う人である。こういう人は、その行いによって祝福される。」(ヤコブ 1:25)

デュセルドルフで、わたしたちは車を乗り換え、その停留所で二時間待たなければならなかった。ここで、わたしたちは人間の本性を学ぶ機会を持った。婦人たちが入ってきて、外套を脱いで汚れていないかとあちこちと調べた。それから、お化粧を始めた。他人に見られる時に自分の外観を最上のものにするために自分の満足のゆく装いをしようとその人々は鏡の前に長い間ぐずぐずしていた。わたしは、罪人が自分の品性の欠点を発見するために見るべき偉大なる道德の鏡である神の律法を考えた。もし、わたしたちが神の律法(品性の道德的標準)を、品性のすべての欠点を正し、改める目的で、熱心に注意深く鏡を見て外観を整えるように学ぶなら、なんという変化が彼らの上に確実に起こることであろう。「おおそ御言を聞くだけで行わない人は、ちょうど、自分の生れつきの顔を鏡に映して見る人のようである。彼は自分を映して見てそこから立ち去ると、そのとたんに、自分の姿がどんなであったかを忘れてしまう」(ヤコブ 1:23,24)。……

神の道德の鏡である律法を見る時、自分の品性に欠点を見出す者がたくさんいる。しかし彼らは「あなたがなすべきすべてのことは、信じることだけである」と何度も聞いてきた。……それで、鏡を見るという冒険をおかした後で彼らは直ちに自分の欠点をすべて記憶にとどめることから離れ、「イエスが、それをすべてして下さった」と言うのである。これらのことをヤコブは指摘しようとしたのである。人間は、自分を見つめて人間の在り方から離れ、それを忘れていたのである。……信仰と働きは、世俗の流れや自尊心と虚栄の対抗する舟を動かすために用いるべき二つのオールである。そしてもしこれを用いないならば舟は流れと共に滅亡へと漂っていく。神はわたしたちが外観を整えるのと同じように注意深く心を整えるために内なる飾りに気を配るようにわたしたちを助けて下さる。(ビュー・アード・ハルド 1887年10月11日)

従順の特権

「あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。」(ヨハネ 15:14)

キリストと身近な交わりを持って生活する者は主から信頼される。自分の主人である方のために最善を尽くす僕は、彼が喜んで従っている命令を出された方と親しい交わりをすることを許される。義務の忠実な遂行において、わたしたちはキリストと一つになる。なぜなら、神の命令に従う者は、神に自由に語るからである。彼の聖なる指導者と最も親密に果たす者は主の偉大さについて最も気高い認識を持ち、主の命令に最も従順である。

「あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたにとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。……あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼んだ。わたしの父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである」(ヨハネ 15:7,14,15)。……

信仰によって神に来る者の品性は、救い主が彼の生活に入っており、すべてを指導し、すべてに行き渡っていることの証人となる。このような人は絶えず「わたしの救い主よ、これはあなたのみ心また道ですか」と尋ねている。彼は常に、自分の行動すべてに関して聖なる友の意志を伺う。なぜなら、彼はこの信頼の中に自分の力があることを知っているからである。彼はどのような困難の時にも神に心を寄せる習慣を持っている。……

神を自分の統治者として受け入れる者は、主の忠誠の誓いをしなければならぬ。彼はクリスチャンの制服を着、自分がそれに属していることを示す旗を高く掲げなければならない。キリストに対する忠誠を公に示さなければならない。隠すことは不可能である。キリストのしるしが、清められた働きを通して生活に現れなければならない。

「わたしはあなたがたを他の民から区別したあなたがたの神、主である。……あなたがたはわたしに対して聖なる者でなければならない。主なるわたしは聖なる者で、あなたがたをわたしのものにしようと、他の民から区別したからである」(レビ 20:24-26)。……「この民は、わが誉を述べさせるために、わたしが自分のために造ったものである」(イザヤ 43:21)。(原稿 96,1900年)

10月18日

従順の動機

「神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ることである。そして、その戒めはむずかしいものではない。」(ヨハネ第一 5:3)

神に選ばれた者が神に誉と栄光を帰すのは、神の戒めを守ることである。それゆえに神に理性の能力を与えられた魂はだれでもみ言葉を探求することと、神の買われた所有物としてわたしたちに命じられたすべてを果たす義務を神に対して持つ。わたしたちはみ言葉がわたしたちに求めるすべてのことを理解しようとしなければならない。……天の住民に対し、墮落していない世界に対し、また墮落した世界に対し、神の国を支配している法律である十戒すべてにわたしたちが従順に聞き従っているという証拠を示す以上に創造と贖いによってわたしたちの所有者であられる神を敬っていることを示すことはできない。

わたしたちは神の律法の知識を得るために勤勉に学ぶ必要がある。わたしたちが神の国を支配している律法を理解するのに失敗したとすればどうして、従順な臣民になれるであろうか。あなたの聖書を開いて、神の教えに関して、あなたに知識の光を与えるすべてのことを探求しなさい。そして主はこのように言われたということを見つけた時、人の意見に従わないで、あなたにとって犠牲がどのようなものであろうと、喜んで従いなさい。その時、神の祝福はあなたの上にあるであろう。……

しばしば、祈りながら次のように尋ねなさい。「主よ、あなたはわたしに何をさせたいと望まれますか。わたしは聖なる戒めをどのような方法によってでも軽視してはいないでしょうか。敵の側についているようなことはないでしょうか。神の十戒を不注意に軽視していないでしょうか。わたしは、キリストとくびきを共にし、重荷を負い、主の共労者になっているでしょうか。主がこのように言われるということに従わない口実を作っていないでしょうか。わたしは世から出、離れる意志がないため、エホバの神がはっきりと示された戒めに従おうとしない危険はないでしょうか。人に対する恐れが神への恐れよりもわたしに大きく影響していないでしょうか」と。

神にあなたをゆだねて、「主よ、ここにわたしは、自分自身をお捧げします。これが『わたしのできるすべてです。』世がわたしを敵の側に置こうとしても、わたしはあなたの律法に従順なことはいたしません」と言おう。(手紙 82,1895 年)

神の統治の基礎

「愛は隣りに人を害を加えることはない。だから、愛は律法を完成するものである。」
(ローマ 13:10)

一人一人にとって最も関心を持つべき質問は、わたしは神の律法の要求に
じているだろうかということである。律法は聖であり、正しく、善であって、神は
わたしたちの行動を、日々、この律法、すなわち主の偉大なる義の標準と比べら
れる。神のみ言葉の光の中で自己をよく吟味することによってのみ、わたしたちは、
主の聖なる義の法則からの自分の逸脱を発見することができる。……

愛は天と、地上における神の統治の基礎をなす原則である。この愛はクリスチ
ヤンの生涯に織り込まれなければならない。キリストの愛は気まぐれな愛ではな
い。それは深く、広く、完全なものである。この愛を持っている者は「わたしを
愛してくれる者だけをわたしは愛します」とは言わない。この聖なる原則に動かさ
れている心は自分本位の性質を乗り越える。

クリスチャンと公言する者の間でさえ、何か腹を立てることはないかいつも
待ち構えている人がいる。彼らは自分の友人たちが注意を要する事柄に没頭して、
自分に捧げる時間がないと、ばかにされ、傷つけられたと感じる。……彼らの生
活は香りのない派手な花のようなものである。そばに来る人に快い香りで祝福を
与える単純な、慎み深い花のほうがはるかに好ましい。

他人の欠点を見つける代わりに、このような人はキリストを着ることによりうる
わしい者となるようにすべきである。……キリストの品性はクリスチャンが守るべ
き標準である。彼の目的は人性をとられたキリストの生涯の中に例示された恵み
を所有することである。……

イエス・キリストの宗教は単にわたしたちを将来の不死の命に備えるためだけ
ではなく、この地上でも、キリストの生涯を送ることを可能にするものである。イ
エスはわたしたちの模範であるばかりでなく、わたしたちの友であり、導き手であ
る。主の力強い腕にすがり、主の御霊を受けることによって、わたしたちは「主
が歩まれたように」歩くことができる。(ユース・インストラクター 1897年 6月 10日)

10月20日

心に記された神の律法

「わたしが、それらの日の後、イスラエルの家と立てようとする契約はこれである、と主が言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心に書きつけよう。こうして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう。」(ヘブル 8:10)

新しい契約の祝福はまったく不義と罪を許す憐みに基礎が置かれている。主は悪を捨て、ご自分に帰ってくる者にこのようにすると仰せられる。「わたしは、彼らの不義をあわれみ、もはや、彼らの罪を思い出すことはしない」と(ヘブル 8:12)。その心を謙遜にし、自分の罪を告白するすべての者は、あわれみと恵みと保証を見出すであろう。

神は罪人にあわれみを示すことによって、義であることをやめられたのであろうか。神はご自分の聖なる律法を尊んでこられず、今後その違反を見逃されるのであろうか。神は真実であり、変わることがない。救いの条件は永久に同じである。命、永遠の命は神の律法に従う者に対して与えられる。思いと、言葉と行為に現れる完全な従順は、かつて律法学者が「先生、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか」とキリストに尋ねた時、イエスが「律法にはなんと書いてあるか。あなたはどうか読むか……そのとおり行いなさい。そうすれば、いのちが得られる」と答えられたように(ルカ 10:25-28)、今日もそれは本質的な事である。

新しい契約の下においても、永遠の命が得られる条件は古い契約と同じように一完全な服従である。古い契約のもとにあつては、律法が要求する贖罪の働きが及ばない故意の性質の違反が数多く存在した。新しい、より良い契約においては、もし律法の違反者が信仰によって主を個人的救い主として受け入れるならば、キリストは彼らのために律法を満たされる。……あわれみと許しは、彼らの罪を取り除かれる主の功績により頼んでキリストに来るすべての者に報いとして与えられる。より良い契約において、わたしたちはキリストの血によって罪から清められる。……罪人は自分では一つの罪をも贖うことはできない。キリストの無償の賜物の中に力がある。この無償の賜物は、自分の罪に気づき、その罪を捨てて、自分の無力な魂を、罪を許される救い主であるイエスにゆだねる者によってのみ正しく評価される。み約束である主は、「聖であつて、正しく、かつ善」であるご自分の完全な律法、神ご自身の本質である律法を彼らの心に置かれる(ローマ 7:12)。(手紙 276,1904年)

品性の真の標準

「ただ律法とあかしとに求むべし、彼らのいうところこのことばにかなわずばしのためあらじ。」(イザヤ 8:20 文語訳)

それを受け入れるすべての人に対して神の恵みが備えられているが、わたしたちがしなければならぬこともまだ他にある。……それはわたしたちを天使たちとの交わりにふさわしいものとするために、わたしたちがしなければならぬ働きである。わたしたちは罪の汚れから解放されて、イエスのようにならなければならない。主は、ご自身が、わたしたちにそのようであるようにと求めておられる通りの方であられた。主は、子供に対しても青年に対してもまた、成人に対しても完全な型であられた。わたしたちはこのパターンをもっと細かい点に至るまで学ばなければならぬ。

イエスは天の王であられたが、しかし、ご自分の腕に幼児を抱き上げ、そして祝福するために身を低くされた。天使たちが崇拜する方は、彼らの舌足らずの、かたこととする讚美をこの上なくやさしい愛をもってお聞きになった。わたしたちは高潔な気高い主のようにならなければならない。その時、わたしたちの心はキリストの心に満ちている神の愛によって和らげられ、柔らかくされるのである。

……

わたしたちは聖なる模範に従って品性を形成するためにすべき仕事を持っている。すべての悪い習慣は捨てなければならない。心の中の不純なものは清くならなければならない。利己的な人は自分のわがままを取り去り、自尊心の強い人はその誇りを捨て去り、うぬぼれの強い人は、その自己過信に勝利して、キリストなくしては自分が無であることに気づかねばならない。……

わたしたちはキリストに錨を下ろし、信仰によって根を下ろし、基礎を置く必要がある。サタンは代理人を通して働きかける。彼は、生ける水を飲んでいない人々を選ぶ。何か新しく、変わったものを渴望して、そのようなものを与えてくれる泉を飲む用意はできているから。「見よ、ここにキリストがいる」とが「あそこにいる」という声が聞かれるであろう。しかし、わたしたちは、それらの声を信じてはならない。わたしたちは真の羊飼いの声の間違えようのない証拠を持っている。そして、主はご自分に従ってくるようにとわたしたちを召しておられる。主は「わたしの父の戒めを守った」と仰せになる。主は、ご自分の羊を神の戒めに謙遜に従う道へとお導きになり、決して律法を犯すことをお勧めになつたりはしない。……

だれも欺かれる必要はない。神の律法は、神のみ座と同じように神聖であり、それによって、この世に生を受けたすべての人が裁かれるべきである。この他には品性を試す標準はないのである。(ビュー・アソド・ハルド 1885年11月17日)

10月22日

命の選択

「目をさましていなさい。信仰に立ちなさい。男らしく、強くあってほしい。」(コリント第一 16:13)

神の真理に従い、神の一つ一つのみ言葉によって生きることは今日のような邪悪な時代にわたしたちを固く立たせるのに充分である。サタンは魂に対して命の勝負を挑んでいる。……

道徳的、靈的力を強めるためにすべての者の手の届くところに好機と機会がある。心は広げられ、高貴にされ、天の事柄をじっと考えるべきである。……心が天に向かって流れるのでなければ、神との特別なつながりを持たない世間的計画や仕事に誘うサタンの誘惑の餌食にたやすくなってしまふ。そしてすべての熱心や努力、またやむことのない活動や、熱にうなされたような欲求が、その仕事のために投入される。そして悪魔は側に立って、得られそうで決して得られない事柄にたゆまず全力を尽くしている人間の努力を見て笑っているのである。サタンが発明するたくらみやもくろみは魂を罠にかけ、あわれな、欺かれた人間は目隠しをされて、自分自身の滅亡へと進んでいく。……

サタンの欺瞞や罠に対する一つの保護手段がある。それはイエスの内にあるその真理である。心に植えられ、目を覚まし、祈ることによって成長し、キリストの恵みによって成長した真理はわたしたちに識別力を与える。真理が心に宿り、サタンのあらゆる誘惑する魔力の代わりに真理の力を受け、そして、あなたとわたしの経験は、真理が魂を清め、導き、祝福することのできるものとならなければならない。……敵はわたしたち、一人一人の手がかりを得ている。それで、もしわたしたちが内から外から攻めてくる誘惑に抵抗したいのなら、主の真理がわたしたちの心に宿って、魂を見守り、あらゆる敵の攻撃に対して警報を鳴らし、行動を起こす用意をして、しっかりと主の側にいる必要がある。見えざる敵の真ん中では、この防御なしには、風に吹きつけられ、揺すられた柳のようになってしまふ。しかし、もし、キリストが魂に宿るならば、わたしたちは主に会って強く、主の全能の力の中にあることができるのである。(手紙 17,1886 年)

神に満ちているもので満たされる

「また人知をはるかに越えたキリストの愛を知って、神に満ちているもののすべてをもって、あなたがたが満たされるように、と祈る。」(エペソ 3:19)

罪の力から逃れることは不可能であると考えている人が大勢いるが、しかし、み約束は神に満ちているもののすべてをもってわたしたちは満たしていただける。わたしたちの志はあまりに低い。目標はずっと高いところにある。わたしたちの心は広がる必要がある。そうすれば神のお備えになるものの重要性を理解できるようになる。わたしたちは神のご品性のこの上なく気高い特質を反映すべきである。わたしたちは自分一人で残されていないことを感謝すべきである。神の律法は、わたしたちがそこに到達すべきである崇高な標準である。……わたしたちは自分の考えに従って歩まないで……キリストのみ足の跡に従っていくべきである。(ビュー・アソド・ハラルド 1892年7月12日)

勝利の働きは、わたしたちの手中にあるが、自分の名や力によって勝利するのではない。なぜならば、わたしたちは自身では神の戒めを守ることができないからである。神の御霊がわたしたちの弱点を助けなければならない。キリストはわたしたちの犠牲となり、保証人となられた。キリストはわたしたちが彼によって神の義となれるようにわたしたちのために罪あるものとなられた。主にみ名を信じる信仰によって、主はわたしたちにご自分の義を着せて下さり、それがわたしたちの人生における生ける原則となるのである。……キリストはご自分の罪のない品性をわたしたちに着せて下さり、主ご自身の純潔のうちにわたしたちを御父に推薦して下さい。(同上)

預言者が「われわれの正しい行いは、ことごとく汚れた衣のようである」と言っているように、わたしたちは自分自身のために義の衣を準備することができない(イザヤ 64:6)。自分の裸を見られないために魂に着せる衣が、わたしたちの内には一つもないのである。わたしたちは、天の織機で織られた義の衣、一点のしみもないキリストの義の衣を受けるべきである。わたしたちは「主はわたしのために死なれた。主はわたしの魂の恥を負われた。それは主の御名によって、わたしが勝利者となり、み座まで高められることが出来るためである」と言うべきである。(同上 19日)

神に満ちているもので満たされることは神の子らの特権である。「どうか、わたしたちのうちに働く力によって、わたしたちが求めた思うところのいっさいを、はるかに越えてかなえて下さることが出来るかたに、教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくあるように、アメン」(エペソ 3:20,10)。(同上)

10月24日

区別され、分離されている道

「狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからは歩いて行く者が多い。命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない。」(マタイ 7:13,14)

これらの道は別々で分離しており反対の方向へのびている。一方は永遠の死へと導き、他方は狭くて起伏が多い。であるからそれらの道を旅するグループは、品性においても、生活においても、衣服においても、会話においても対照的である。狭い道を旅する人々は、旅路の終わりに彼らが受ける幸福を語りあっている。……彼らは広い道を行く人々のような衣服を着ず、彼らのような話し方も、行動もしない。一つの手本が彼らに与えられている。悲しみの人で、深い悲しみを知っておられる方が、彼らのために道を開き、ご自身がまずその道を歩まれたのであった。この方に従う者は、主のみ足跡をそこに見出し、慰められ、元気づけられる。主はその道を安全に通り返された。もし彼らが主の足跡に従うなら彼らもまた安全に通り返けることができるのである。

広い道には、彼らに属する人々、衣服、その道にある快樂などで、いっぱいになっている。彼らは自由に、歡樂や、飲み騒ぎにふけり、彼らの旅路の終わり、道の終わりに確かに滅びがあることを考えない。彼らは自分の破滅に毎日近づいているが、なお気が狂ったようにますます急ぐのである。……そして手遅れになった時、彼らは実際は何も得ていないことに気付くのである。彼らは影をつかみ、永遠の命を失うのである。……

信心深い外見は誰も救わない。すべての人は、深い生ける経験を持たなければならぬ。これだけがわたしたちの前にある悩みの時に、彼らを救うのである。その時、彼らの働きはどのような種類のものであったか試される。もし、それが金、銀、または宝石であるなら、主の天蓋の秘密の場所に隠されるであろう。しかし、もし彼らの働きが木や草、また、切り株であるなら、激しいエホバの怒りから彼らを守ることでできるものは何一つないのである。……

永遠の命のためにどのような、またあらゆる犠牲を喜んで払う人々は、それを得るであろう。そしてそれは苦しむ価値のあるものであり、自己を十字架につけ、すべての偶像を犠牲にする価値のあるものである。永遠の栄光の重さはこの世のすべての宝よりも重く、はるかに素晴らしく、この世のあらゆる魅力を覆う。(ビュー・アンド・ワルト 1882年12月12日)

困難への挑戦

『狭い戸口からはいるように努めなさい。事実、はいろうとしても、はいれない人が多いのだから。』(ルカ 13:24)

狭い戸口とは、入るのに困難な入口を意味する。このたとえによってキリストは、男にとっても女にとっても、この世やまたこの世が持っている魅力を捨て去って、心からの愛を持って神の戒めに従うことがいかに難しいかをお示しになった。広い門は、入りやすい。そこを通り抜けるのに人の心に痛みを与える制限の呼びかけはない。自己否定や自己犠牲は広い道には見られない。そこには墮落した食欲や、生まれつきの性癖がありあまるほど豊富な場所を見つける。そこにはわがままや高慢、妬みや悪い憶測、また金銭欲や自己称揚などが見られる。(原稿 165,1899年)

キリストは「入るように努め」、すなわち、魂を悩ませ「なさい」と言われた。わたしたちは自分の知恵や、判断力、また力が非常に不足していることを感じ、常に神に寄り頼む必要を感じなければならない。そして、その時わたしたちのために敵に勝利された主に全的に依存しなさい。なぜなら、主はわたしたちの弱さを同情され、わたしたちが勝たねばならないのに、もし主が助けに来てくださらないなら滅ぼされることを知っておられるからである。……どのように安易な、またありきたりの努力によってもあなたが永遠の報いを勝ち取ることができると考えてはならない。あなたの歩む道には狡猾な敵がいるのである。「勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である」(黙示録 3:21)。ここにキリストが勝利されたように勝利すべき戦いがある。主の送られた誘惑と、試練の、また苦難と、戦いの生涯は、それにならうようにわたしたちの前に置かれている。わたしたちは自分自身の力で努力することができるかもしれないが、しかし、成功はしない。偉大な勝利者であられる主の特別な助けなしに行われるすべての努力は無益であり、勝利は主の功績によることであると心の底から、感じ、助けなく、苦しみと必要のうちに岩なるキリストの上に落ちて砕かれる時、キリストは、わたしたちが倒れるよりもむしろ敵の力からわたしたちを救出するために、すべての天使をお送りになるのである。(手紙 1b,1873年)

わたしたちは道は狭く、その門は狭いことを知る必要がある。しかし、わたしたちがその狭い門を通り抜ける時に、その広さは無限となる。(同上 138,1897年)

10月26日

はっきりした区別

「わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることです。」(ヨハネ 17:15)

クリスチャンは、キリストの人を変えさせる恵みの影響をその生活にあらわし、神の標準を持つ者として世からはっきり目立つべきである。彼らは天でキリストと共に座るためにあげられる。それは、彼らがこの世に対して、また、天使や人々に対して永遠の世界の永遠に続く描写を表現することができるためである。彼らは神の律法の義務を帯びた要求を伝える人々として命の言葉を示すべきである。神はご自分の僕が高い標準のものであることを求めておられる。主はこの世の律法よりもより高い標準を持つ律法(主のご品性の写しである律法)に従うよう彼らに求めておられる。

神の働きが至上である。主の知力はすべて、また霊的才能のすべてを召しておられる。それらのものは主と人類の奉仕のために捧げられるべきである。主は神のご性質を受けている働き人を召しておられる。イエスを真に信じている人々は、墮落していない世界と、墮落した世界に聖なるものに似た品性を示すことによって、主との共労者となるであろう。彼らは、この世が与えることができるよりも高く、より聖なる状態の楽しみを持っていることを示すべきである。神は自分の資質や才能を主と協力して培うすべての人々に聖霊の力をお与えになるであろう。彼らはそれによってすぐれた者となることができる。……

キリストに従う人々は、神の御霊が分け与える感化に従って、この世の道徳的風潮を改善するよう努めるべきである。彼らは自分の行為によってそれを高めることができることを考えて、この世の水準まで降りていくべきではない。言葉にも、衣服にも、精神にも、すべてのことにおいてクリスチャンとこの世のものとの間には、はっきりした区別があるべきである。この区別には世俗に対して罪を自覚させる感化力がある。彼らは主の息子や娘が世から分離して、主が彼らをご自身と結び合わされることを知るのである。

「そして、神は主をよみがえらせたが、その力で、わたしたちをもよみがえらせて下さるであろう」(コリント第一 6:14)。だれがこの水準まであげられることを喜んでいるだろうか?(手紙 199,1899年)

この世におけるキリストの代表者

「わたしが世のものでないように、彼らも世のものではありません。真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります。」(ヨハネ 17:16,17)

イエスは「彼らが真理によって聖別されるように、彼らのためわたし自身を聖別いたします」を言われる(ヨハネ 17:19)。「あなたの御言は真理であります」。わたしたちは神のみ言葉に詳しくなり、学び、それを生活の中で実行する必要がある。……真理を受け入れて後、わたしたちが品性に働きかける真理の清めの効果をこの世に対して現わさないなら、イエス・キリストを世の罪を取り除かれる方として認めないことになる。もし、わたしたちがもっと良い男女にならないならば、また、もっと優しく、もっと同情心があり、もっと思いやり深く、もっと柔和と愛にあふれ、イエスが世に対し、あわれみの働きを導いておられる愛を他の人々に表さないならば、この世に対してイエス・キリストの力をあかししていないのである。

イエスは自分を満足させるために生活されなかった。主は他の人々の益のために、ご自身を生ける焼き尽くす犠牲としてお与えになった。彼は接触されるすべての人を幸福にし、高貴にし、向上させるためにおいでになった。キリストを受け入れる人々は、信仰によって心のうちにキリストが住んでくださるので、不作法や苛酷な、また粗野なところをすべて捨て去り、イエスのうちにある快活や親切をあらわすようになる。キリストは暗闇に輝く光であった。だから主に従う人々もまた世の光となるべきである。彼らは聖なる祭壇から点じた彼らの灯心を持つべきである。真理によって清められる品性は、申し分のない輝きを加えていくのである。

キリストはわたしたちの模範である。しかしわたしたちが主を見つめていない限り、また、主のご品性を臆想しない限り、わたしたちの実生活に主のご品性を反映することはない。主は柔和で心から謙遜であられた。主は決して粗野な行動をとったり、不作法な言葉をお語りにならなかった。主はわたしたちが他の人々に対して無遠慮な、無情な、思いやりのない態度を取るのをお喜びにならない。このような利己主義はすべてわたしたちの品性から一掃してしまわなければならない。そしてわたしたちはキリストのくびきを負わなければならない。その時わたしたちは、……天の使いたちとの交わりにふさわしいものとなるのである。わたしたちはこの世においてそうなるべきであるが、この世のものとなつてはいけない。わたしたちはイエス・キリストの代表者となるべきである。命と栄光の主が御父をあらわすためにわたしたちの世界においでになったようにわたしたちは世にイエスをあらわすために出ていくべきである。(手紙 60,1894年)

10月28日

あなたの天幕をどこに張っているのか

「このように、あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。そこではキリストが神の右に座しておられるのである。あなたがたは上にあるものを思うべきであって、地上のものに心を引かれてはならない。」(コロサイ 3:1,2)

カナン¹の地の近くに天幕を張るべきである多くの人々がエジプトの近くに天幕を張っている。彼らは義の太陽の光の中で生活していない。多くの者が好みを満足させるために娯楽の場所に出向く。しかし、そうすることによって霊的な力は得られない。そして、あなたは滅びの側にいる自分自身を見出すのである。娯楽を愛する心を励ますことは、宗教的経験を愛する心に水を差すことである。なぜなら生来の心を楽しませているつまらない事柄で心が一杯になるので、イエスに入っていたく余地がなくなってしまうからである。……

愛によって働き、神のみ心に添うために魂を清めるには信仰が要求される。キリストを信じる者はたくさんいる。彼らは主を詐欺師などとは考えない。彼らは聖書が主の聖なるご品性の揭示であると信じている。彼らはその聖なる教理を賞賛し、み名、すなわち、人々が救われることのできる天下において与えられている唯一のみ名をあがめる。けれどもこのような知識のすべてをもってしても彼らはこれ以上ない罪人として神の恵みに対して本当に無知なのである。彼らはイエスに入っていたくために心を開いていないのである。(ビュ・アト・ハルド 1890年10月7日)

青年たちの益のためにわたしは何と言おうか。あなたはイエスに対し、主の愛、主のあわれみに対して心を開いているだろうか。あなたの魂の部屋が満たされるように、そしてあなたの心の中で神に対して歌い、曲を奏でることができるよう。ああ、もしあなたの愛がすべてイエスに捧げられているならば、あなたはカナンの言葉や歌を学ぶのだが!

あなたがたは、世俗の人の内に軽々しさや不真面目、また虚栄や不道德、そして洒落や冗談を見ると考えるだろうが、むしろキリストと共によみがえらされたあなたがたの間でそれが見出されないようにしましょう。……今わたしたちは自分の考えを高め、そして、主の学校で学ぶために来なければならない。(同上)

時の終わりに近づくにつれて、悪の風潮は永遠の死に向かって一層明白に流れている。わたしたちはイエスのみ手にしっかりとつかまり、常にわたしたちの信仰の導き手であり、その完成者であるイエスを見上げる時のみ安全でいられる。主はわたしたちの力強い助け主である。(同上)

だれがわたしたちの友であるか

「不貞のやからよ。世を友とするのは、神への敵対であることを、知らないか。おおよそ世の友となろうと思う者は、自らを神の敵とするのである。」(ヤコブ4:4)

聖書にはこの世に好意と支持を求め、神に寄り頼むことを忘れるよりも、この世の友情や好意を失って、主に堅く結びつくほうがより安全であるというありあまるほどの証拠が用意されている。……

主ご自身が世のものと、世から選び出し、主ご自身のために清められたものとの間に、隔ての壁をお作りになった。世は、このような区別があることを知らない。……しかし神はこのような分離をお作りなり、それをお続けになっている。旧約と新約聖書のどちらにも、主はご自分の民が精神においても、仕事においても、行為においても、世とはまったく別になるようにとはっきり命令された。清い国家であり、特別な民となるために、彼らは暗闇から驚くべきみ光に招き入れて下さった方のみわざを、ほめたたえることができる。光の子らが習慣や行為、また精神において暗黒の子らから離れているほど東は西から離れていない。この区別は時の終わりが近づくにつれ一層明白に、そして一層決定的になるであろう。……

わたしたちの仲間に対して彼らの危険を忠実に告げず、また善に対して勧めたり警告したりしないで、へつらったり賞賛することが愛であるといわれることがある。この愛は天から生まれたものではない。わたしたちの言葉や行為は真剣で熱心でなければならない。特に魂の救いをおろそかにしている人々の前ではそうすべきである。……もしわたしたちが彼らと一緒にあって軽薄や不真面目、また快楽を追い求めたり、もしくは、心からまじめさを追い出そうとするなら、いつも自分の模範によって彼らに「平安、平安、案じることはない。あなたは警告を受ける理由はない」と言い続けているのである。これは罪人に対して「あなたは問題ない」と言っていることになる。(ビュー・アソド・ヘルド 1884年1月8日)

もしわたしたちが神の息子娘であると公言しているならば、最後の大いなる裁きの日に、彼らと会う時、彼らの血にはわたしたちの魂は関係ないと不信心な者に言えるような方向を追求すべきである。(同上)

10月30日

神か富か

「だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。」(マタイ 6:24)

あなたはには、一個人として、救われるか、失われるかの魂がある。ノアやヨブ、またダニエルのような人も自分の義によって彼ら自身だけを救うことが出来た。もしあなたがこのことを考えるなら、あなたは、有益な結果を確実にするために日々あなたの心と力をすべて用いるためにこの上なく、熱心にならねばならないということに気付くであろう。

世の崇拜者は富を自分の神としている。そして他のすべてのことはこの崇拜に対して二次的なものとなる。クリスチャンは、イエス・キリストについての関心と相いれないすべての愛、快樂の愛を軽視するべきではないであろうか。大切な時間は無価値なものや虚栄に費やされるために与えられたのではない。このような行いにおいて、わたしたちは、この世における現在の平和によって来世の永遠の幸福を自らにごまかしているのである。……

低い標準をあなたの目標にしてはいけません。目標を高くしなさい。どんな時でも神の御霊の働きを妨げようとしている魂の敵の側で働くようなことがあってはならない。イエス・キリストの力と恵みによって、躊躇しないで、しっかりと歩きなさい。……あなたは創造と贖罪によって二重に神の財産である。そして神の栄光はあなたの個人的な成功にかかっている。

あなたは世にあって、天使と人の前に見せ物になっている。神にあって勇敢でありなさい。神の武具をすべて身につけなさい。あなたの未信者のお父さん*にセブンスデー・アドベンチストとして神の十戒のすべてに忠実で正直であるためにあなたの生活が汚れのないものであることを示しなさい。あなたは神の断固とした証人になることができ、神はあなたがそうなることを求めておられる。あなたは決して疑いというサタンの側で働いてはならない。恵みの時は大切な時間である。黄金のような時間を神が与えられたタラントを用いることに使いなさい。そうすればあなたは主のために何か良いものを蓄え、あなたのまわりのすべての人の祝福となるであろう。あなたがイエス・キリストに対して、忠誠で、忠実であることを天使に喜んで見てもらいなさい。(手紙 71,1893年)*この文章は未信者の父親を持つ一青年への手紙である

息子となる条件

「だから、『彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。そして、汚れたものに触れてはならない。触れなければ、わたしはあなたがたを受けいれよう。そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう。全能の主が、こう言われる。』」(コリント第二 6:17,18)

あなたがたは、いと高き方の息子、娘となることを望んでいるだろうか。ここにこの偉大なる特権の条件が述べられている。出て来なさい。分離しなさい。汚れたものに触れてはならない。世と親交を保ち、世の楽しみに参加し、世の関心と行動を共にしながら、なお神の息子であることはできない。「世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。」(ヨハネ第一 3:1)とヨハネは言っている。しかし、わたしたちは、救いの条件を受け入れるよりも、わたしたちの主の敵の好意を受けようとする願望に重さを置くべきだろうか。……神の息子、娘たちから期待できる偉大な事柄がある。わたしは、今日の青年を見て、わたしの心は彼らに期待する。なんとという可能性が、彼らの前に開かれていることであろう。もし彼らが、まじめにキリストを知ろうと求めるならば、主はダニエルに知恵をお与えになったように、彼らに知恵を与えられるであろう。……青年たちが、自分のものにするのでできる特権を理解し、また感謝するように、そして誤ることのない神の知恵によって指導していただくようにしなさい。……

この地上の王の前に招かれたなら、それは偉大な名誉である。しかし、わたしたちに提供されている驚くべき特権を考えよう。神のご要求に従うならば、わたしたちは宇宙の王の息子、娘になることができる。十字架につけられ、そして、よみがえられた救い主によって、わたしたちは、義の実で満たされ、永遠にわたって王の王である方の宮廷で輝くのにふさわしくされる。この世はいと高き方の息子、娘の位の高さを知らない。神の子たちのまわりにいる者は、謙遜な自制心の強い精神、また忍耐深い柔和な心に特別な価値があることを認めない。彼らはキリストを知らないし、評価もしなかった。……彼らは主を理解できなかった。そしてわたしたちが主の聖なるご品性に似た者になればなるほど世から誤解されるのである。わたしたちがキリストと天との交わりに来れば来るほど、わたしたちは世との交わりは少なくなる。なぜならば、わたしたちは世のものではないからである。(ビュー・アヴ・ヘアルト 1888年2月28日)

研究 3

神の栄光ともう一つの声



「栄光を帰せよ」

—真の礼拝—

栄光を帰せよ=真の礼拝

栄光を帰せよ、つまりこのお方に栄光を与えよとは、何を意味するでしょうか。真の礼拝は、このお方の犠牲を感謝し、認めることによつてのみ可能です(ヨハネ 4:21-24)。

現代の真理は、「大声で言った、『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め(礼拝せよ)』。」と伝えます(黙示録 14:7)。

そして、この栄光によつて全地が「明るくされ」とあります(黙示録 18章)。

では、何が神に栄光を帰すことなのかを見てみましょう。

先にモーセが神の栄光を求めたときに、出エジプト記 34:6-7 でその願いに答えて下さいました。神の栄光を示された後、モーセはどうしたでしょうか？

「モーセは急ぎ地に伏して拝し、」(出エジプト記 34:8)。

神の栄光を知ったとき、まずすることが、このお方を礼拝することです。

神の本来のみ姿、その地位を知ったとき、また、本当に十字架を知ったとき、その時、このお方に礼拝するようになります。ですから、イエスは、「知っているかたを礼拝」と言われました(ヨハネ 4:20-24)。

そして、これこそ、第一天使のメッセージなのです。

では、何を知ることでしょうか。

新約で、使徒パウロが何と述べたかを見てみましょう。ピリピ 2:5-8 に神の栄光を述べた後、次のように続けています。

「それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。

それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひぎをかがめ、また、あらゆる舌が、『イエス・キリストは主である』と告白して、栄光を父なる神に帰するためである」(ピリピ 2:9-11)。

このすべての名にまさるイエスの御名こそ、モーセの前に述べられた主のみ名です。「わたしはわたしのもろもろの善をあなたの前に通らせ、主の名をあなたの前にのべるであろう」(出エジプト記 33:19)。「主、主、…」(出エジプト記 34:6)。彼が神に栄光を示して下さるように願ったときにのべられたみ名、そしてそのみ名が示されたとき、彼はただちに伏して、このお方を礼拝しました。

そして、主がご自分のみ名をのべられたとおりにそのまま告白すること—これがこのお方に栄光を帰すことなのです。

『『イエス・キリストは主である』と告白して、栄光を父なる神に帰する」(ピリピ 2:11)

「この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」(使徒行伝 4:12)。

「弟子たちはキリストのみ名によって、働きを進めて行かなければならない。…キリストのみ名は彼らの合い言葉、彼らを区別するバッジ、一致のきずな、彼らの行動方針を支持する権威、成功の源となるはずであった。キリストの名が書かれていないものは、神の国では認められるはずはないのである。」(患難から栄光へ上巻 22)

そして永遠にわたり、「イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひぎをかがめ、また、あらゆる舌が、『イエス・キリストは主である』と告白して、栄光を父なる神に帰する」のです。

この人たちは最終的にそのみ名によってどうなるでしょうか。

「なお、わたしが見ていると、見よ、小羊がシオンの山に立っていた。また、十四万四千の人々が小羊と共におり、その額に小羊の名とその父の名とが書かれていた」(黙示録 14:1)。

まさに彼らは、はじめから変わらない神のご目的が成就した者たちです。

「この民は、わが誉を述べさせるためにわたしが自分のために造ったものである」(イザヤ 43:21)。

「これらいつさいのものは、御子によって造られ、御子のために造られたので

ある」(コロサイ 1:16)。

「感謝のいけにえをささげる者はわたしをあがめる(わたしに栄光を帰す)」(詩篇 50:23)。

始めから変わらず、永遠に輝く神の栄光—そのために創造されたすべてのものは、ここに帰らなくてはなりません。それはこの地上でこの栄光を見ることから始まります。

した。彼は熱心に救い主の言葉をとらえ、彼の心は何が本当に真理なのか、またどのようにしたらそれを得ることができるのかを知りたいとの大きな熱望にかきたてられました。彼はイエスさまに「真理とは何か」と尋ねました。

しかし、彼は返事を受けるのを待ちませんでした。法廷の外の群衆の騒ぎが増して怒声になっていました。祭司たちが今すぐに判決を下すようにわめきたてていたため、ピラトは当面の問題に引き戻されました。人々のところへ出て行き、「わたしには、この人になんの罪も見いだせない」と宣言しました(ヨハネ 18:33-38)。

この異教の裁判官の言葉は、救い主を訴えているイスラエルの役人たちの不誠実と虚偽に対する痛烈な譴責でした。

祭司たちと長老たちがピラトのこの言葉を聞いたとき、彼らの失望と怒りはとどまるところを知りませんでした。彼らは長いあいだ陰謀をめぐらし、この機会を待っていたのです。イエスさまが釈放されそうな形勢を見ると、彼らはイエスさまを今にも八つ裂きにしようでした。

彼らはすべての理性と自制を失い、ののしりをぶちまけ、人と言うよりも悪魔のようにふるまいました。彼らは大声でピラトを攻撃し、ローマ政府の非難をもって脅かしました。彼らはピラトがイエスの有罪宣告を拒否したことを告発し、彼はカイザルに自ら対抗した人間なのだと断言しました。それから彼らは叫び声をあげて、

「彼は、ガリラヤからはじめてこの所まで、ユダヤ全国にわたって教え、民衆を煽動しているのです」(ルカ 23:5)。

ピラトはこの時イエスさまを罪に定めようとは思っていませんでした。彼はこのお方の無実を確信していました。彼はキリストがガリラヤの出身だと聞くと、その地方の領主ヘロデのもとへキリストを送ることに決めました。彼はちょうどエルサレムに来ていたのです。この行為によって、ピラトは裁判の責任を自分からヘロデに移そうと思いました。

イエスさまは飢えから気を失うばかりでした。そして寝ていないために弱っておられました。またご自分が受けた残酷な取り扱いに苦しんでおられました。しかし、ピラトはこのお方をまた兵士たちに渡しました。そして、このお方は容赦のない暴徒のやじと侮辱に囲まれて、引きずり出されました。

キャロブクリーム

■材料

木綿豆腐	150g
豆乳	100g
ココナツオイル	50g
きび砂糖	60g
黒糖	ひとつまみ
キャロブパウダー	40 g

■作り方

1. 木綿豆腐をよく水切りします。
2. その後、ミキサーでよく混ぜ、クリーム状になったら、できあがりです。
3. パン食やケーキのデコレーションなどにどうぞ。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。



書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第43話

ピラトの前で(II)

聖霊がピラトと争っておられました。イエスさまの質問は、彼が自分の心を導いてもっと厳密にさぐるようにと意図されていました。ピラトはこの質問の意味を理解しました。彼の心が彼自身の前に開かれ、彼は自分の魂が強い確信にかきたてられているのを見ました。しかし、彼の胸中に誇りが頭をもたげて、次のように答えました、

「わたしはユダヤ人なのか。あなたの同族や祭司長たちが、あなたをわたしに引き渡したのだ。あなたは、いったい、何をしたのか」。

ピラトの黄金の機会は過ぎ去りました。しかし、イエスさまはご自分がこの地上の王になるために来たのではないということをピラトに理解させようと望まれ、こう言われました、

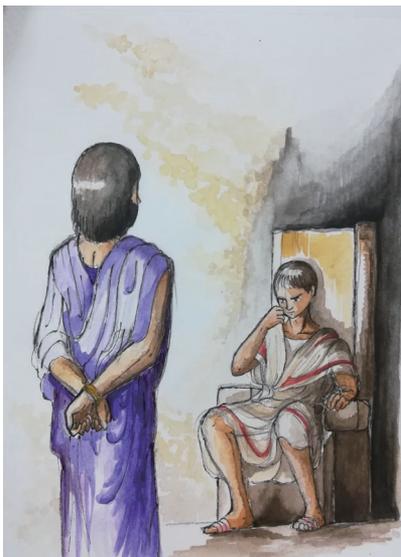
「わたしの国はこの世のものではない。もしわたしの国がこの世のものであれば、わたしに従っている者たちは、わたしをユダヤ人に渡さないよ

うに戦ったであろう。しかし事実、わたしの国はこの世のものではない」。

そこでピラトは尋ねました、「それでは、あなたは王なのだな」。

イエスさまは「あなたの言うとおり、わたしは王である。わたしは真理についてあかしをするために生れ、また、そのためにこの世にきたのである。だれでも真理につく者は、わたしの声に耳を傾ける」と答えられました。

ピラトは真理を知りたいと望みました。彼の思いは混乱していま



(43 ページに続く)